

2020 年度予算案に対する組み替え動議の提案説明(案)

2020 年 3 月 17 日 さいとう愛子

日本共産党名古屋市議員団を代表して、新年度名古屋市一般会計予算の組み替えを求める動議について説明します。

消費税増税の打撃に加え、新型コロナウイルスの影響が市民生活の多方面に追い打ちをかけている今、いのちと暮らしを守る予算が求められているにもかかわらず、来年度予算案は、金持ち優遇の市民税減税を続けながら、減税をテコに民間委託、民営化を進め、学校給食費値上げ分への補助もせず、敬老パスの回数制限を行おうとする、など市民負担を増やすものとなっています。

以下の方向で、一般会計予算の抜本的な組み替えを提案します。

まず、市民の暮らしや営業を守り、子育て・教育を応援し充実する事業を進めます。後期高齢者医療保険料の値上げ分への補助、介護保険料を 1 人年平均 3 千円引き下げ、国民健康保険料の子どもにかかる均等割を廃止します。子ども医療費の助成対象を通院も 18 歳まで拡大し、学校給食費の値上げ分に対する助成、および第三子以降の給食費の無償化を行います。

小中学校の統廃合を中止し、少人数学級を進めて、教育を充実させます。高校生給付型奨学金の支給対象を全学年の非課税世帯に拡大し、私立高校授業料の補助の拡充、など子育て世帯の経済的な負担を軽減します。

また、新型コロナウイルスの影響で仕事が激減している、中小企業・業者の暮らしと営業を応援します。以上、市民生活の応援のために 116 億円をあてます。

次に、その財源確保にあたっては、市民税減税を中止し、税収を約 92 億円ふやすとともに、新たな税金の浪費につながる大型開発事業、市民生活に不要不急な事業は中止します。リニア開業を前提とした名古屋駅前開発、ささしま地下通路建設の基本設計、高速道路への新たな出入り口の設置、さらに、中部国際空港2本目滑走路建設などの支出をやめます。

また、市民合意のない名古屋城天守閣木造復元関連の支出金は中止し、約 24 億円の一般財源を確保し、全体で、116 億円を確保します。

以上、市長に対し、一般会計予算案を速やかに組み替え、再提出されることを求めて提案を終わります。